

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第6回）会議要録

- 1 日 時 令和6年12月4日（水）18時30分から20時30分まで
- 2 場 所 武蔵野商工会議所5階 第1、2会議室
- 3 出席委員 阿部、市川、和、熊田、見城、酒井、佐藤、鈴木、西田、馬場、福本、町田、宮田、吉田（敬称略）
- 4 欠席委員 坂井、山田
- 5 事務局 福島（常務理事）、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 事

（1）事務局より

事務局より、配付資料の確認を行った後、主管課より武蔵野市地域支援課の福山課長および林課長補佐が出席することを伝えた。

（2）委員長挨拶

【委員長】 本日は出席いただきありがとうございます。策定委員からの意見を踏まえ、事務局にて中間まとめ案を作成しております。今日は中間まとめ案に対して皆さまから意見を出してもらいたいと思います。

（3）議 事

①第5回策定委員会 会議要録確認 資料1

【委員長】 資料2 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）会議要録を確認し、意見や訂正等があれば修正いたしますが、いかがでしょうか。

なお、委員会終了後の校正依頼については、12月11日（水）までに事務局まで連絡ください。

※委員からの意見等はなかった。

②第5次武蔵野市民地域福祉活動計画 中間まとめ案について 資料2

【委員長】 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画 中間まとめ案について、事務局より説明をお願いします。

※資料2に基づき事務局より説明した。

③グループディスカッション

【委員長】 各グループにてグループディスカッションをお願いします。

（グループワークを実施した後、各グループで出た意見について発表があった。詳細は

を参照。)

【委員長】 今回のグループディスカッションでは、主に計画の構造および内容に関する話がありました。計画の構造に関しては、委員長、副委員長および事務局にて、本日出た意見を基に反映する予定です。ただ、パブリックコメントの募集の期限が迫っており、全ての意見を反映することは難しいため、優先順位をつけながら計画へ反映していきたいと思います。そのような中で、計画の構造については、「やさしい日本語」で記載すべきという意見が出ていましたが、誰が見ても分かりやすい文言を用いて計画書が作れるようにすること、「アクションが多い」という意見については、意味合いが歪まない範囲で内容を集約する必要があること、「現状と課題」に関しては指摘のあった部分について見直すこと、「主体の説明」として4つの主体を提示していますが、すべての市民が活動する訳ではないことを考えた時に、活動に関心を持ってもらうために「活動に参加している人」の活動を「市民社協」や「公共・専門機関」がどう支えていくのかという構造であることや「活動に参加している人」はどのような方を対象としているのかを計画書で示す必要があることを主に反映していきたいと思います。また、計画の内容については、複数のグループで「情報弱者」という文言が適切ではないとの意見が出ていたので、武蔵野市としてどのような表現が適切かを踏まえ、文言を修正していくこと、情報へのアクセスが難しい方は武蔵野市内で一定数いることは確かなので、その方々をどうサポートしていくのかということを改めて検討すること、「市民社協」と「公共・専門機関」の書き分けについて検討することを主に行っていききたいと思います。今回の計画では気軽に手に取ってもらうことや計画の進捗を管理しやすくする目的でサンプルにすることを目指しておりますので、改めてその点を念頭に置きつつ見直しをしていきたいと思います。来年以降は各地域社協の計画について完成予定ですので、その内容を踏まえ、引き続き全体の校正等について、策定委員には是非議論をお願いいたします。

(4) その他

①懇親会の開催について 資料3

※資料3に基づき事務局より説明した。

②第7回策定委員会開催時間の変更について

※事務局より説明した。

【委員】 パブリックコメントの募集については、募集期間はいつからいつまでですか。  
また、地域社協にはパブリックコメントの募集については周知済でしょうか。

【事務局】 募集期間は12月13日（金）から翌年の1月6日（月）までを予定しています。  
また、11月20日（水）に開催した代表者連絡会にて、地域社協の各会長へ事前にパブリックコメントの募集について周知しております。

【副委員長】 武蔵野市赤十字奉仕団の方が策定委員として来てもらっているが、周知はしていますか。

【委員】 赤十字奉仕団の分団長会議でパブリックコメントの募集について情報共有がされています。

（5）次回日程

・令和7年1月8日（水）18時00分より武蔵野商工会議所 5階第1、2会議室

【委員長】 他になければ、これで第6回の策定委員会を終わります。

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第6回）  
グループワーク報告

グループA 情報発信			
阿部 春彦	和 秀俊	宮田 恵	吉田 真也
(職員) 中村、林			
<p><b>【実施主体別の課題解決に向けたアクションについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「すべての市民」はどの範囲までを対象としているかがわかりづらい。読み手によって捉え方が変わってしまうのではないか。</li> <li>・各枠組みのアクションが多い。その中で優先順位をつける等により評価や振り返りがしやすいようにしてはどうか。</li> <li>・同じ内容のアクションについては、別枠に記載し、取り組み主体を羅列する方が良い。共に連携して取り組んでいくイメージを持ちやすいのではないか。</li> <li>・「市民社協」はアクションの数の多さというよりも、市民社協にしかできない(市民社協らしい)内容にさらに、重点を置いてはどうか。</li> </ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい日本語をもっと前面に出した方が良い。</li> <li>・P15に記載されている「情報弱者」のような「〇〇弱者」という単語は、市民から誤解されやすいと思うので、別の表現が望ましい。</li> </ul>			
グループB 住民のかかわり・つながり			
市川 順子	鈴木 庸子	馬場 武寛	
(職員) 三藤、後藤			
<p><b>【現状と課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5次活動計画では、これまで策定委員会で議論してきたことを踏まえ、基本目標で新たに「つながりたいときにつながることができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！」を掲げたが、「住民のかかわり・つながり」に書かれている現状がこれまでの計画の取り組みに関するもので、今回の目標や取り組みに合っていないように思う。</li> </ul> <p><b>【実施主体について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本目標や取り組みはだれが取り組むものなのかイメージがしづらい。前回から属性別で団体を分けていたものを「活動に参加している人」に一括りにし、地縁型を「地域住民のつながりづくりを進める団体」、テーマ型を「特定の課題に取り組んでいる団体」としたが、まだ対象がぼやけている。</li> <li>⇒たとえば、「地域住民・・・」を「地域社協・コミセン」、「特定の課題・・・」を「NPO、ボランティア団体」等と具体的に書いてはどうか。</li> <li>⇒すべての市民を「地域活動にまだ感度がない人を中心とする全市民」、活動に参加している人を「どこの団体にも所属していない人も含む活動者」と捉えてはどうか。</li> </ul>			

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第6回）  
グループワーク報告

- ・特定の課題に取り組んでいる団体がつながりづくりをするときには地域住民にかかわるので、特段抜き出して書かなくてもよいと思う。
- ・実施主体ごとにどのような人をイメージしているか想像ができないので、それぞれの説明があった方がよい。
- ・地域で自然につながる取り組みの主体は市民であるため、市民社協や公共・専門機関の内容はもっとサポートするものに寄った方がよい。その中でも、市民社協は「ネットワーク・コーディネート」、公共・専門機関は「インフラの整備や財源確保」など内容を書き分けたほうがよい。

【実施主体別の課題解決に向けたアクションについて】

- ・しくみを作り過ぎてしまうと、取り組みのテーマである「自然につながる」ではなくなってしまうのではないか。
- ・「公共」の部分に、「住民の意見を踏まえ、予算を確保するしくみをつくる」というアクションを入れたい。地域で今活動している団体に必要なのは、お金と人だと思う。
- ・市民のライフスタイルや考え方が変わってきているので、サポートをする関係機関は、これまでの支え方を見直すことも取り入れてほしい。
- ・外国人支援のキーパーソンは保健師や助産師など医療関係者だと思っているので、市民社協と医療関係とのつながりについても取り組んでほしい。

【地域や福祉の情報を知らない人と支援をつなぐ市民について】

- ・自分が利用できるサービスや活動団体などの情報を知らない人がまだ多いと思う。その人たちが行ける場所、聞ける場所に伝える役割の人がいることが大事。
- ・市民社協の地域担当職員の役割として、地域に出向いて支援につなぐ役割が書かれていたが、策定委員会に参加している人たちのような市民が、それぞれの活動する場面で地域や福祉の情報を知らない人と会ったときに伝えられるキーパーソンになり得ると思う。そのような人を増やしていく取り組みも必要。

【地域社協別地域福祉活動計画について】

- ・「活動をしている人」に地域社協も含まれているが、地域社協別の計画でも取り組みが記載されるのであれば、地域社協以外の人を意識した書きぶりにしてはどうか。
- ・全地域版で立てている基本目標や取り組みに対して、各地域社協のページにも付随する現状と課題を書いてもらってはどうか。
- ・第4次活動計画の構成では、地域社協別の計画が「現状と課題」と「全地域での取り組み」の間に入っているが、全地域の取り組みと順番を入れ替えた方が地域社協に参加していない人が読む際にイメージしやすいのではないか。

グループC 担い手

熊田 博喜	見城 学	西田 順子	町田 敏
-------	------	-------	------

（職員）横山、河合

【コミュニティ協議会と地域社協の連携について】

- ・双方の活動の内容を精査し、見直すことが大事。
  - ⇒それぞれの活動において、災害時要援護者事業など、役割が被っている事業がある。
  - その中で、どのように双方が連携し、有効に人繰りをするのが重要。
  - ⇒各地域社協のエリア内にコミュニティ協議会があると良い。理想は団体のロッカーを置いて、その前のテーブルで団体が作業を行っているところに、コミュニティ協議会の方が話しかけて連携を取るような流れになると良い。
  - ⇒私が関わっている地域社協のエリアにあるコミセンでは団体のロッカーがある。他にも学童の方が使うロッカーがあり、テーブルで作業をしている際、コミュニティ協議会の方と会話することがある。
- ・双方のどちらかがハブになるかということもある。例えばコミュニティ協議会の運営委員会に青少協や地域社協の方が参加しているのであれば、その運営委員会にて話し合えば良いと思う。
  - ⇒月に一回茶話会をして、話す機会があっても良いのでは。
- ・活動に参加している人のアクションとして、「コミュニティ協議会と地域社協の連携について検討し～」とあるが、「コミュニティ協議会と地域社協の役割分担を明確にし～」の方がはっきりしていて良いのでは。
  - ⇒何かの足がかりになるきっかけとして、どう連携していくのかを具体的にしたい。
- ・各コミュニティ協議会が連携を上手く取れるかが問題。
  - ⇒まずは連携が上手くいきそうな地域から進められれば良い。全体で足並みをそろえる必要は無いと思う。
  - ⇒各地域で連携の取り方は様々で良いと思う。
  - ⇒最初から連携を最大化するのは難しいので、最小限の連携から徐々に進めていけば良いのでは。
- ・各地域で双方が協力するという意識を持つことが大事。最近、コミセンだよりも地域社協のニュースレターを入れている。当初、試しにコミセンだよりも挟み込んでみたところ、その事務負担が大変だったので、今後は挟み込みを双方が協力してやっという話になった。
  - ⇒双方でお便りの作成時期が異なることは連携が取れにくい問題の一つになる。
- ・市民社協のアクションとして、「コミュニティ協議会と地域社協が共通する…連携等について、双方に働きかける。」とあるが、具体的な働きかけの例示があると良い。
  - ⇒今後双方が連携を取る際、協力できるポイントはある。市民社協がそれを例示化して欲しい。
- ・市民社協のアクションとして「実際に活動する市民と共に、地域活動の有償化についても検討する」とあるが、個人的には災害時要援護者事業は有償化すべきではないか

と考えている。地域社協では、高いレベルでの作業を求められることもある。

- ・地域活動の有償化という意味ではシニアポイントがある。シニアポイントをきっかけに新しくボランティアを始めた人が地域社協を知るきっかけになるような仕組みがあると良い。

⇒シニアポイントについても見直しが必要では。事業としてやっていることを広く周知すべき。

⇒65歳以上を対象にするのではなく、若手も対象にしてはどうか。

- ・有償ボランティアを導入する際、最低賃金との兼ね合いが課題となる。最低賃金との関係で整理する必要がある。

- ・有償ボランティアにおいて、お金が貰いづらいのであれば、ポイントをもらうということも良いのでは。また、お金を払って若手が地域活動に参加してもらうのも良いのでは。

⇒内容と事例によって有償ボランティアを検討するのはどうか。

⇒地域活動の担い手を増やしたらポイントをもらえるのは良いのでは。

⇒新しくポイント制度を導入することで、地域活動が大変になることもある。「ポイントを利用するためのより有効な仕組み」が必要では。

⇒以前は地域通貨が流行っていたが、最近は耳にしなくなった。何か導入後に課題が出たのかもしれない。

- ・活動に参加している人のアクションとして、「趣味など個人的なつながり～」とあるが、文章として分かりづらい。

⇒「趣味活動を入口にして、地域活動につながる」ということ、その逆もつながる「きっかけとなる」旨を入れた方が良い。

- ・地域の老人クラブが徐々に無くなっているが、なぜか。

⇒次に担う人がいないため。魅力が無くなっている可能性もある。

- ・私が住む地域の高齢者の中で麻雀が流行っており、場所取りが大変になっている。

- ・地域活動に参加するための色んなルートがあると良い。子どもの頃から親が地域活動をやっている、自分が大人になった時にコミセンや盆踊り等に参加するのも良い。

- ・年を取るにつれてライフステージに合った地域活動がある。

⇒子ども関係や老人関係等、関心のある地域活動にそれぞれが参加できるようになると良い。

⇒その場合、地域活動の出入りが自由になっていないといけない。一度入ったら抜けられないのであれば参加しにくい。

- ・若手は自分が納得しないと活動してくれない。納得した場合は私たちが思った以上に積極的に活動してくれることもある。

⇒若手はタイムパフォーマンスが大事。

⇒昔は学生は暇な人だからという理由で参加してもらっていたが、最近は学業やアル

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第6回）  
グループワーク報告

<p>バイト等があり、参加や関心を持つに至らない場合も少なくない。 ・市と社協が連携することも大切。お互いの役割を決めることが大事。</p>			
<p>グループD 相談機能</p>			
酒井 陽子	佐藤 清佳	福本 千晴	
<p>（職員）佐々木、木原</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対してのアクションが具体的な内容になっていない。どれがどの課題に対してのアクションなのかがわからない。</li> <li>・「アウトリーチ機能」や「情報弱者（別ページ）」等、一般市民には理解しづらい言葉を全体的にやさしい日本語にする必要がある。</li> <li>・「課題がありそうなのに手助けを望んでいない人」や「情報弱者」は上から目線に感じるので、全体的にネガティブな言い回しは避けたい。</li> <li>・すでに活動に参加している人からすると、新たに集いの場をつくるのはハードルが高いため、発展するような意味合いにした方が良い。 →相談を受ける場としての意識をもつ、情報を発信する、既存の団体同士で連携して機能を補完し合う、など</li> <li>・既存の場に参加したくない人向けの場（SNS等を含む）をつくる必要はあるので、上記と明確に分けて両方を記載した方が良い。</li> <li>・「特定の課題に取り組んでいる団体のアクション」だと、人によってその定義の受け取り方が変わってしまうのではないか。例えば、「独自の活動を行っている団体（NPO団体やボランティア団体など）」とした方がわかりやすい。</li> <li>・しくみを整えることは市民にはハードルが高い。その役割は市民社協だと思う。</li> <li>・(P.15)「日本語と各国の母語を操ることができる外国人住民」では対象者が限られるので、通訳ができる人やツールを操れる人も含めてもいいのでは。</li> </ul>			